

第117回東北地方交通審議会
船員部会議事要録

平成30年 7月27日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会 第117回船員部会

日 時 平成30年7月27日（金） 13：30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員：高橋（真）部会長、増田部会長代理、

佐々木委員、森委員（欠席）

労働者委員：熊谷委員、高橋（雅）委員、津田委員

使用者委員：齋藤委員、白幡委員、平岡委員

運輸局：畠山海事振興部長、丹藤海事振興部次長

佐藤船員労働環境・海技資格課長

柳田船員労政課長、村林労政課専門官

大友労政係長

議 題

（1）管内の雇用等の状況について

（2）その他

（資料）

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（5月分）

資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）

資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）

資料4 新規求人・求職数（全国）

資料5 有効求人・求職数（全国）

資料6 有効求人倍率（東北管内）

資料7 有効求人倍率（全国）

資料8 船員の特定最低賃金の改正に関する検討資料

資料9 「めざせ！海技者セミナーin仙台」開催結果概要プレスリリース

資料10 「内航海運に関する職業講座実施」プレスリリース

資料11 新聞情報

（参考資料）「海事レポート2018」プレスリリース

「船員求人情報ネット JOBS for SEAMEN」

◎開会

【丹藤海事振興部次長】

〔第117回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料の確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【高橋（真） 部会長】

それでは、早速議事に入りたいと思います。

お手元にあります議事次第の議題（1）管内の雇用等の状況について、事務局から報告をお願いします。

〔柳田船員労政課長から資料1から資料7に基づき説明〕

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございました。

ただいま資料1から7まで、それから前回の質問に対する答えを説明していただきましたけれども、何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

【増田部会長代理】

船員求人情報ネットですけれども、これはどなたでも見られるのですか。会員登録などはないのでしょうか。

【柳田船員労政課長】

どなたでも見られます。パスワードなどありません。

【増田部会長代理】

わかりました。

【津田労働者委員】

同じく船員求人情報ネットについて、公開しないでほしい求人票の話がありましたが、例えばどういう場合が公開しないでほしい求人票なのでしょうか。

【柳田船員労政課長】

求人票のフォームの中に公開区分というのがあり、求人者側で選択をする項目になっております。非公開を希望するという選択をすると、運輸局のシステムの中だけの登録になります。ただ、そういう求人を出す会社というのは、自身で求職者の情報を窓口でとって、会社からアプローチするという選択肢なのかなと思います。非公開を選択する求人はほとんどないので、ほぼ船員求人情報ネットに掲載されている現状です。

【高橋（雅）労働者委員】

求職する人も自分の履歴を公開するか公開しないか、どこの地域で公開してほしいとか、そういうことができますよね。だから、これの船主側と思えば。要は、船主にしてみれば、求人手続をしないと運輸局からの情報は得られないということです。船員のほうも、非公開にするとしても自分の情報を提供しないと、運輸局から求人情報を受けられないということです。

【高橋（真）部会長】

要は情報を得るために一応手続はとるけれども、公開はしないということですか。

【高橋（雅）労働者委員】

手続はしないと、いろいろな情報は自分のほうに入ってこないということです。

【高橋（真）部会長】

わかりました。ありがとうございます。

そのほか資料の1から7と、求人情報ネットに関して、ご質問等ありますか。よろしいですか。

では続きまして、議題（2）その他に入ります。

まず、資料の8から10について事務局から説明をお願いします。

[柳田船員労政課長から資料8から資料10に基づき説明]

【高橋（真）部会長】

ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明について、何かご意見、ご質問ありますでしょうか。ないようですので、では次に、委員の皆さんから情報提供をお願いします。

初めに、労働者委員から情報提供をお願いします。

【津田労働者委員】

八戸地区の中型イカ釣り漁船に関する情報です。

5月の中旬に、八戸港から中型イカ釣り漁船が太平洋アカイカ漁へ向けて出港しました。その中で、漁模様は序盤から好調に推移しておりまして、6月の下旬に1隻が入港して以来、順次、21日までに15隻が水揚げしております。その内容についても、昨年より多く積み込んでおり、約1万ケース程度で推移できております。今後まだ残っている船が入港してくると、昨年の供給量から約1,000トンくらい上回るのではないかと、率にして2割程度上回る見込みだというような明るい情報がありました。

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。そのほか、高橋委員をお願いします。

【高橋（雅） 労働者委員】

先ほど運輸局から話がありました宮城県水産高校での進路懇談会の次の日、7月10日ですけれども、同じ水産高校で一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターが主催した漁業ガイダンスがありました。これは沖合・遠洋漁業就労者をふやすべく取り組んでいるものです。これには、漁業種では遠洋マグロ、遠洋カツオ一本釣り、海外まき網、近海まき網、あとは調査捕鯨の会社など12社が参加しました。運輸局が実施した海技者セミナーと同じようなスタイルのブースを設けて、そこに生徒が五、六名ずつ10分くらい話を聞いて回るというスタイルでした。

これには航海技術類型2年生19名と3年生14名、あと機関工学類型3年生23名の参加がありました。機関工学類型の2年生は、ちょうど短期の航海に行っているということで参加できず、専攻科の生徒についても、9日、10日は海技の試験日ということで参加できなかったということでした。14時半から始まって17時10分に終わりました。

あともう一つ、小さい子供たちが海に親しむことを目的として、海の日、野蒜海岸で地元のNPO法人が主催する地引き網の体験イベントを行っており、当方も3回ほど参加しています。10時からお昼近くまで2回ほど網を引きますが、それには4歳から小学校4年生、5年生くらいまでの子供たちと保護者と合わせ

て大体500名ほどの参加がありました。去年は400人くらいの参加でしたが。

地元野蒜周辺の方々だけではなく、新聞等々でこのようなイベントがあるという情報をもとに、仙台近郊の方々も来られていました。じかに魚に触れたり見たりする機会がないので、こういう地引き網体験など海に親しむことには、海員組合としても積極的に取り組んでおります。

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。

では、使用者委員のほうから何かありますでしょうか。

【白幡使用者委員】

先般の西日本豪雨災害について、日本旅客船協会に国から4つの要請がございまして、まず1点が、ホテルシップ。宿泊、入浴、食事のできる設備を備え十分な休息をとれる環境を提供することができる旅客船やフェリーの調査をしてほしいというもの。2点目が、中距離フェリーの空車情報の提供を毎日行ってほしいというもの。3点目として、各地区協会及び旅客船事業者の災害時輸送支援協定の執行状況。4点目として、被災地支援可能船舶確認調査、貨物の積み残し状況等についても毎日行ってほしいということがございました。

今回、特に被害があった中国旅客船協会ですけれども、連日、広島県、それから江田島市、呉市、広島市、中国電力、マツダ等から物資輸送の依頼、問い合わせが殺到しまして、中国運輸局、それから関係旅客船事業者と連携をとって対応している状況です。

きのう江田島のほうに連絡したところ、呉の交通網が非常に悪くて、呉から広島に通勤・通学している方々は、呉港から小用港に一旦渡って、そこから高速船で宇品まで行っているという状況がいまだに続いているということです。特に関係航路にある瀬戸内海汽船では、非常に忙しいと話しておられ、川から出た瓦れきとかごみの漂流物が非常に多くて、安全確保に配慮しながら運航しているという話もございました。

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。そのほかございますか。

【平岡使用者委員】

先ほど説明にもございましたけれども、7月9日の宮城県水産高校での内航海

運に関する就職講座と、11日には青森県の八戸水産高等学校での内航海運の出前講座、13日の海技者セミナーと、1週間のうちに3回も、本当にありがとうございます。このような活動が内航船員の増加につながっていくのかなと思いますので、今後もよろしくお願ひいたします。

それから、日本内航海運組合総連合会で、6月28日に内航船員確保対策連絡協議会が開催され、平成30年度に関しては、通常の予算のほかに特別枠の予算として1,800万円を確保したので、各地区で取り組みをしていただくようにということでしたので、今後も内航船員確保に対する推進事業について、運輸局からもご指導よろしくお願ひいたします。

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。齋藤委員、何かありますか。

【齋藤使用者委員】

船員の高齢化に係る話題ですが、現在気仙沼ではカツオの水揚げが盛漁期になっております。水揚げ作業は、専ら漁船員のOBが当たっているケースが多いのですが、船員の年齢が高くなっており、また船員の数も減っている中で、OBも減っているということです。結果、人手がなかなか足りなくて、水揚げ作業が非常に大変になっているという状況です。

また、気仙沼のカツオ船は主に三重県、高知県、宮崎県の3県の船が多く、3年に一回になりますが、各県のカツオ船の船員の子供たちを気仙沼に呼んでいます。船員はほぼ半年ぐらい家を離れて三陸まで漁を継続しており、その間会えないので、子供を招待し、お父さんに会ってもらおうということを何年も行っています。今年度はお父さんというより、おじいさんに会うという人が多くて、それほど船員が高齢化しているという現状です。

【高橋（真） 部会長】

お父さんは継いでいないのですか。

【齋藤使用者委員】

小学校の子供を呼んでいるので、乗っている船員はそのおじいさんが多い。お父さんもいるにはいるのですが、少なくなっています。

【高橋（真） 部会長】

お父さんは、別な職業に就かれているということですか。厳しいですね。

ありがとうございました。そのほか、何かありますか。

では、ないようですので本日の議事はこれで終了といたします。

次回の船員部会は8月24日金曜日の13時30分から、会場はここ、4階会議室で行います。

◎閉会